

平成29年度の三木市教育委員会の事務の
管理及び執行の状況に関する点検・評価報告書

(概要版)

三木市教育委員会

目 次

I	教育委員会の活動状況	P 1
II	教育委員会事務局の組織、職員数、主要業務及び決算見込額	P 2
III	施策の点検・評価	
1	子ども一人一人の力を伸ばします	P 3
2	魅力ある学校園づくりを進めます	P 5
3	人と人との繋がりを大切にする生涯学習を進めます	P 6
4	その他の取組	P 8
5	市長の権限に属する事務で教育委員会事務局職員が補助執行 している事務	P 9
IV	外部評価者の評価	P 9
	[資料] 第2期三木市教育振興基本計画の数値目標(抜粋)	P 10

はじめに

三木市教育委員会では、「三木市教育大綱」の基本理念「ふるさと三木を誇りとし、自立心あふれる人材の育成」のもと、0歳から15歳までの切れ目のない教育・保育を推進する中で、平成29年度は「大志躍動～『心豊かに元気よく学び続ける』ひとづくり～」を教育目標に掲げ、学校教育、地域・家庭教育を通して、子どもたちの豊かな心と生きる力を育むとともに、生涯を通じて学び続けることができる地域社会の雰囲気づくりに取り組みました。

教育委員会の事務の管理及び執行状況に関する点検・評価は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会が1年間に行った施策を自ら振り返り、評価するものです。

この概要版は、平成29年度に重点的に取り組んだ施策についての点検・評価の概要をお示しするものです。

この点検・評価を通して、現在実施している施策や事務事業における成果と課題を整理するとともに、見直しと改善を行い、よりの確で効果的な施策を実施していくことで、三木市の教育の一層の充実と発展に資することができるよう今後も努力してまいります。

なお、各施策の詳細については、本編をご覧ください。

平成30年9月

三木市教育委員会

I 教育委員会の活動状況

1 教育委員

(平成30年3月31日現在)

役職	氏名	委員任期	備考
教育長	不在		
委員 (教育長職務 代理者)	里見 俊實	平成17年9月26日～ 平成31年9月30日 (平成30年3月31日付 けで辞任)	教育長職務代理者は 平成29年7月4日か ら
委員	井口 徹	平成22年10月1日～ 平成30年9月30日	
委員	石井 ひろ美	平成28年1月1日～ 平成31年12月31日	
委員	浦崎 秀一	平成28年10月1日～ 平成32年9月30日	

2 教育委員会の開催状況

定例会を12回、臨時会を5回開催し、議案29件、報告4件を審議するとともに、28件の協議並びに請願2件を処理しました。

3 総合教育会議

志染中学校区と星陽中学校区を対象として実施した「中学校の環境整備に関するアンケート」結果を踏まえ、総合教育会議では、2つの中学校だけでなく、小学校も含めた三木市全体の学校のあり方について議論し、「特定の中学校だけではなく、小学校も含めて市全体で学校環境のあり方を総合的に考える必要があること」や「小規模校の解消は、喫緊の課題として取り組むこと」が課題として抽出され、この課題について議論を進めていくことを確認しました。

4 教育委員のその他の活動状況等

幼稚園、認定こども園、小学校、中学校及び特別支援学校の入園・入学式、修了・卒業式及び運動会等の学校園の事業に出席したほか、オープンスクール等が実施されたときには、学校を訪問し、教育現場の実態の把握に努めました。

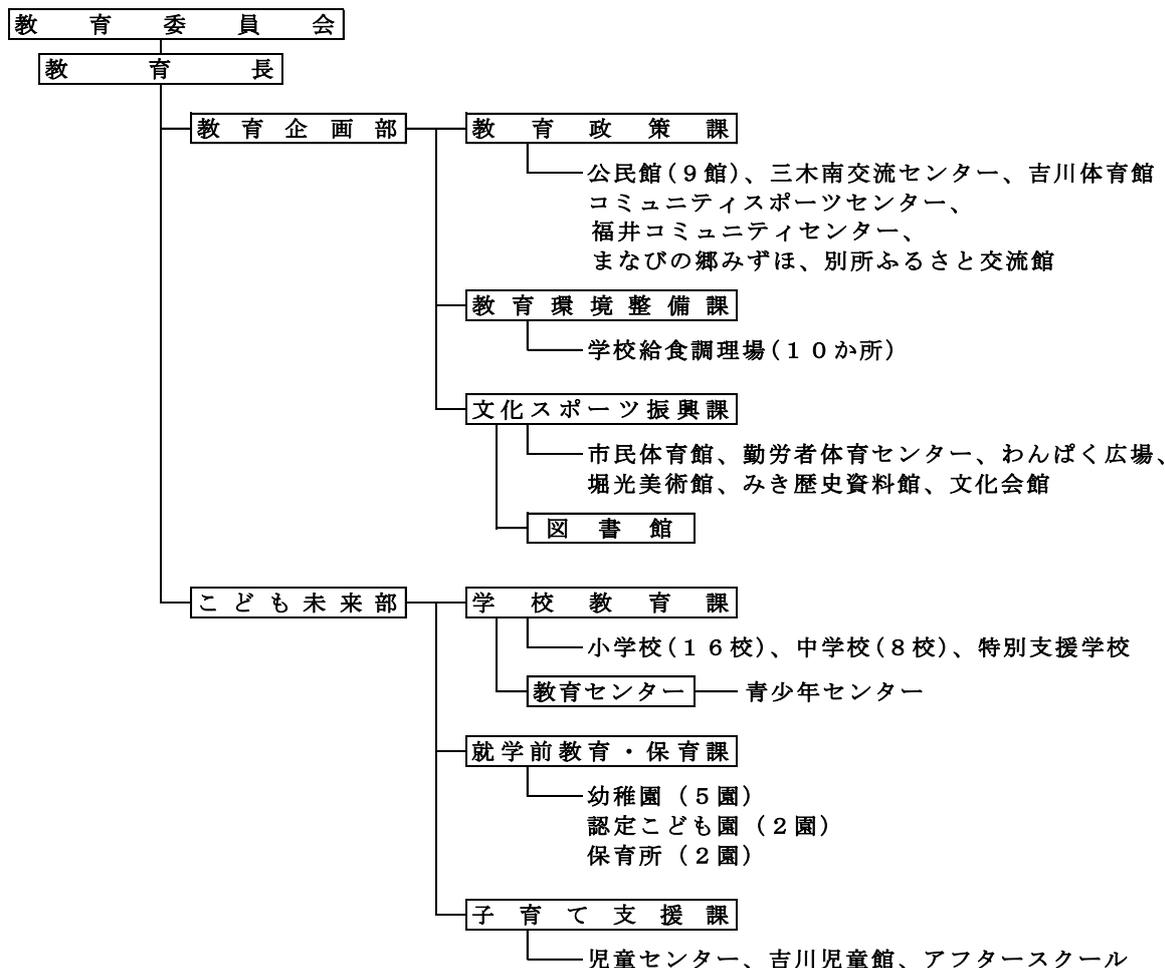
さらに、成人式、スポーツ賞表彰式、みっきいふれあいマラソン等の文化・スポーツ事業などに出席しました。

また、播磨東地区、兵庫県及び近畿市町村教育委員会連絡協議会等が主催する研修会等に積極的に参加し、今後の教育のあり方等について理解を深めることができました。

II 教育委員会事務局の組織、職員数、主要業務及び決算見込額

1 教育委員会事務局の組織及び職員数（関係施設を含む。）

(1) 教育委員会事務局組織図（平成29年4月1日現在）



(2) 教育委員会事務局の職員数

(各年度3月31日現在)

区 分	平成29年度	平成28年度	増減
正 職 員	85 人	91 人	△6 人
非 常 勤 職 員	299 人	283 人	16 人
合 計	384 人	374 人	10 人

2 教育委員会事務局の主要業務

教育委員会事務局は、教育企画部とこども未来部の2部制で業務を進めています。

教育企画部には、教育政策課、教育環境整備課、文化スポーツ振興課のほか、図書館などの施設を配置しています。

こども未来部には、学校教育課、就学前教育・保育課、子育て支援課のほか、教育センターなどの施設を配置しています。

教育委員会事務局の平成29年度の主な業務は、本編をご覧ください。

3 教育委員会所管業務の歳出決算見込額

(単位：円)

款	平成29年度 (決算見込額)	平成28年度 (決算額)	増減
教育費	4,142,192,172	3,326,809,336	815,382,836
民生費	4,420,870,031	4,197,779,116	223,090,915
総務費	20,416,493	45,926,276	△25,509,783
合計	8,583,478,696	7,570,514,728	1,012,963,968

Ⅲ 施策の点検・評価

1 子ども一人一人の力を伸ばします

◇ 取組の目的

就学前教育・保育の充実、そして一人一人の状況に応じた学力、心、体力の育成を通じて、子どもたちの個性と能力を伸ばすことを目的に取り組んでいます。

◇ 取組の項目

(1) 就学前教育・保育の推進
(2) 「確かな学力」の向上
(3) グローバルな人材を育成する教育の推進
(4) 「豊かな心」の育成
(5) 「健やかな体」の育成
(6) 特別支援教育の充実

◇ 主な点検・評価項目

(1) 就学前教育・保育の推進

ア 幼保一体化計画に基づく保育者の質の向上のための研修事業【就学前教育・保育課】(補助執行)

「三木市幼保連携型認定こども園教育・保育共通カリキュラム」に基づき、教育・保育の質の向上をめざし、保育者合同研修会と交流研修会を実施しました。

イ 特定教育・保育施設の評価及び監査【就学前教育・保育課】(補助執行)

市内の特定教育・保育施設の教育・保育の質の向上及び運営の適正化を図るために、市独自に第三者による評価及び監査を実施しました。

ウ 保育事業【就学前教育・保育課】(補助執行)

認定こども園1園及び小規模保育施設5園を新たに開園したことに

より、希望園への入所を待つ児童が減り、教育・保育の質の向上と運営の適正化を図りました。

(2) 「確かな学力」の向上

ア 基礎学力の定着と教育の質の向上【学校教育課】

学力向上方策として、「三木市学力向上サポート事業」を実施し、推進校の実態に応じた学力向上に取り組みました。

また、全国学力・学習状況調査を踏まえ、市内の児童生徒の正答率の低かった問題を中心に指導のポイントを示し、教職員の指導力向上の一助となるよう教職員向け指導資料を改訂しました。

イ 三木市小中連携教育推進事業【学校教育課】

9年間を見通した一貫性・連続性のある指導を行い、子どもの不安を取り除き、学びの楽しさあふれる学校づくりをめざしました。

また、特別な支援を要する児童生徒が、一貫した指導の下で学校生活に適應できるよう情報交換を行い、共通理解を図りました。

(3) グローバルな人材を育成する教育の推進

話せる英語教育の推進【学校教育課】

小学校低学年から英語教育に取り組むなかで、すべての小学校が文部科学大臣から教育課程特例校の指定を受け、発達段階に応じた外国語活動の授業を行いました。

(4) 「豊かな心」の育成

ア 我が国と郷土を愛する心を養う教育（ふるさと教育）【学校教育課】

三木市歌や三木音頭等の学習、肥後の守を使った工作の授業を市内全小学校16校で、「ふるさと三木の歴史学習」を8小学校でそれぞれ実施しました。

イ 生徒指導体制の確立【学校教育課】

児童生徒のいじめ等の問題行動の未然防止と早期対応のため、教育相談体制の充実を含めた生徒指導体制の確立に努めました。

ウ 道徳の時間の充実【学校教育課】

「心豊かなひとづくり」の基盤として、児童生徒の道徳性を養うために、道徳教育の要となる道徳の時間の充実を図りました。

(5) 「健やかな体」の育成

ア 中学校における部活動外部指導者の配置【学校教育課】

部活動の活発化をめざして、市内3中学校へ9人の活動外部指導者を配置しました。

イ 学校給食の充実【教育環境整備課】

食育の生きた教材としての学校給食の充実に努め、給食に使用する地元産食材を啓発し、特産物についての理解や郷土愛を高めました。

(6) 特別支援教育の充実

ア 学校園・各機関との連携を踏まえた特別支援教育の推進【教育センター】

就学前教育保育施設と小学校間及び小、中学校間において継続した支援が子どもの実態や特性に応じて適切に行えるように、子どもの実態把握や具体的な支援のあり方等について、保護者及び学校園の相談に応じました。

イ 特別支援教育研修会【学校教育課】

全教職員が、特別支援教育の理解、啓発を推進するための研修会を開催し、児童生徒一人一人の状態に応じた教育的配慮が行えるよう、障害特性等を正しく理解し実践するための取組を行いました。

2 魅力ある学校園づくりを進めます

◇ 取組の目的

教職員の資質の向上や学校園情報の発信、また、安全・安心な教育環境の整備を通じて、地域社会の中でより積極的な役割を果たしていける学校園づくりを進めます。

◇ 取組の項目

(1) 学校の組織力の向上
(2) 教職員の資質及び指導力の向上
(3) 開かれた学校園づくりの推進
(4) 安全・安心な教育環境の整備
(5) 小規模校の良さを生かした学校規模に応じた教育環境の充実

◇ 主な点検・評価項目

(1) 学校の組織力の向上

学校の組織力の向上【学校教育課】

組織のリーダーを育成するため、市内小学校元校長を講師として招聘し、講座を開催しました。

各校においては、教職員に対して人事評価・育成システムに基づく面談を実施し、協働体制の確立を図りました。

また、事務職員が教職員の勤務管理、施設設備管理をはじめとした業務改善の取組を通じて、学校運営の活性化に一定の役割を果たしました。

(2) 教職員の資質及び指導力の向上

専門研修講座・校務システム研修の開催【教育センター】

園児児童生徒一人一人の可能性を伸ばし活力ある人材を育てるために、教職員等の研修と実践の統合を図り、教師力と学校力を向上させることを目的とした講座を実施しました。

(3) 安全・安心な教育環境の整備

ア 安全・安心な学校園をめざして【学校教育課・教育政策課】

三木市教職員危機管理ハンドブックを活用した研修等を行うことで、教職員の危機管理意識を高め、組織的に安全・安心な学校園づくりを進めました。

さらに、学校園内及び学校園区内における園児、児童生徒及び教職員等の安全確保を図るため、学校校区を7ブロックに別け、学校安全指導員（警察OB）を配置しました。

イ 学校施設等の整備の推進【教育環境整備課】

地震時に児童生徒の安全を確保するため、屋内運動場の照明器具や窓ガラスなどの非構造部材の耐震化を行い、これで、すべての小・中・特別支援学校の耐震化事業が完了しました。また、児童生徒が快適な学校生活を送れるようエレベーターの設置及びトイレの洋式化を実施しました。

(4) 小規模校の良さを生かした学校規模に応じた教育環境の充実

学校の適正規模・配置の検討【学校教育課】

志染中、星陽中学校区でアンケートを実施し、結果の分析を行いました。その分析を受けて、総合教育会議において、三木市の学校の適正規模・配置について議論がなされ、小規模校の解消には喫緊の課題として取り組むことに加え、小学校を含めた市全体で学校再編について検討することを確認しました。

3 人と人との繋がりを大切にする生涯学習を進めます

◇ 取組の目的

地域や家庭教育の支援、人権教育の推進、市の特色を生かした文化・スポーツ振興事業を通じて、すべての人が尊重され、心豊かに学び続けることのできる社会づくりを目的に取り組んでいます。

◇ 取組の項目

- | |
|--------------------------|
| (1) 人権尊重の文化に根ざしたまちづくりの推進 |
| (2) 地域・家庭の教育力の向上 |
| (3) 学びたいときに学べる環境の整備 |

(4) 地域に根ざした生涯学習・市民活動の活性化
(5) 市民ニーズに対応した図書館の充実
(6) 生きがいとうるおいを感じる文化の育成
(7) 生きがいを実感できる生涯スポーツの振興

◇ 主な点検・評価項目

(1) 人権尊重の文化に根ざしたまちづくりの推進

ア 市民研修の充実【人権推進課】

住民学習について、市立公民館を拠点に積極的に啓発を行っています。しかし、若い世代の参加率が低いため、若年層に向けた啓発活動をより一層推進していきます。

イ 男女共同参画の推進【人権推進課】

年3回の情報誌の発行や、男女共同参画センターや各市立公民館等において男女共同参画に関する各種講座及びセミナーを開催しました。

(2) 地域・家庭の教育力の向上

ア 家庭教育推進事業【市民協働課】

市内の10公民館では、家庭教育学級の開催による親同士の仲間づくりや親としての意識を高揚させる機会を提供しました。

イ 人の目の垣根隊【青少年センター】

児童生徒の安全安心を確保するため、地域で子どもを守るボランティア「人の目の垣根隊」により、登下校時の見守りを実施しました。

ウ 青少年補導委員活動【青少年センター】

青少年の健全育成及び非行防止等のために、補導委員による街頭補導活動、青少年を取り巻く有害な環境の是正に関する啓発活動を実施しました。

(3) 学びたいときに学べる環境の整備

高齢者大学、同大学院の運営【市民協働課】

ライフサイクルに応じた生きがいの創造と、地域活動を推進する指導者や協力者の養成のため、高齢者大学、高齢者大学大学院を開校しました。

(4) 地域に根ざした生涯学習・市民活動の活性化

公民館における学習機会の充実【市民協働課】

市内10公民館において、乳幼児学級、女性セミナー、高齢者教室など、ライフステージに応じた講座を開催しました。

(5) 市民ニーズに対応した図書館の充実

乳幼児から高齢者まで、すべての市民が便利に利用できる図書館づくりに努めました。

また、図書館ボランティアなど、市民参加による図書館運営の充実と生涯学習の場の提供を行いました。

(6) 生きがいとうるおいを感じる文化の育成

ア 歴史・美術の杜構想の推進【文化スポーツ振興課】

みき歴史資料館を「みき歴史・美術の杜みゅーじあむ」の中核施設として、まちのにぎわいづくりや地域の活性化に取り組みました。

イ 文化・芸術団体の活動支援【文化スポーツ振興課】

三木市の文化芸術の振興と普及を図るため、文化芸術賞については、2人の優秀な文化芸術活動に対し、文化芸術奨励賞を授与しました。

(7) 生きがいを実感できる生涯スポーツの振興

ア 広く市民が参加できるニュースポーツ大会及び市内外の交流事業の実施【文化スポーツ振興課】

子どもや高齢者、様々な事情によりスポーツをしていない人も気軽に体を動かし、積極的にスポーツを楽しんでもらえるよう、スポーツ推進委員とともに、ふれあいスポーツデー、スナッグゴルフ大会等を開催しました。

イ 「三木山総合公園総合体育館」のオープン【文化スポーツ振興課】

市民の誰もがスポーツ・レクリエーション活動に親しみ、また、各種スポーツ大会などが開催できる三木市の新たなスポーツ拠点として、三木山総合公園総合体育館が平成29年10月にオープンしました。

4 その他の取組

◇ 取組の目的

学校教育事業を補助する諸活動を通じて、子ども達の教育のより一層の充実を図ることを目的に取り組んでいます。

◇ 取組の項目

(1) 就学援助・就園奨励
(2) 通学（園）支援事業
(3) 中学校自転車通学者保険補助金交付事業
(4) 奨学資金給付事業

◇ 主な点検・評価項目

(1) 就学援助・就園奨励【学校教育課、就学前教育・保育課】

経済的な理由で就学が困難な児童生徒の保護者に対して、就学に係る費用の一部を援助することにより、義務教育の円滑な実施に努めました。

(2) 通学（園）支援事業【教育環境整備課、就学前教育・保育課】

学校園の統廃合により、遠距離通学（園）することとなった園児児童生徒及び三木特別支援学校に通学する児童生徒を対象に、スクールバスの運行又は通学補助金を交付し、通学支援を行いました。

(3) 中学校自転車通学者保険補助金交付事業【教育環境整備課】

自転車の利用者に、自転車損害賠償保険の加入が義務付けられたことにより、中学校の自転車通学者に対し自転車通学者保険補助金を交付し、対象者の保護者負担を軽減することにより、全ての対象者の保険加入を促進しました。

(4) 奨学資金給付事業【教育環境整備課】

経済的理由で高校、大学、専修学校等の学資の支弁が困難な世帯に対し、奨学資金を給付し、教育の振興を図りました。

5 市長の権限に属する事務で教育委員会事務局職員が補助執行している事務

◇ 取組項目

(1) みきっ子未来応援協議会
(2) 手当給付事業
(3) 地域子ども・子育て支援事業
(4) 要保護児童対策
(5) ひとり親家庭への自立支援
(6) 多世代交流施設整備事業

IV 外部評価者の評価

京都教育大学教授の竺沙知章氏と、兵庫教育大学教職大学院元教授の廣岡徹氏に、学識者評価を賜りました。評価の詳細については、本編をご覧ください。

〔資料〕第2期三木市教育振興基本計画の主な数値目標

目標指標		平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成32年度 (目標値)
希望する園への入園を待つ児童数			168人 (H28.10.1現在)	96人 (H29.10.1現在)	0人
学校の授業時間以外に普段(月～金曜日)、小学生で1時間以上、中学生で2時間以上勉強している子どもの割合	1時間以上勉強している小学生	58.3%	63.6%	61.8%	70.0%
	2時間以上勉強している中学生	36.0%	34.5%	34.7%	50.0%
全国学力調査の全国平均を100とした時の指数	小学校	95	96	94	100
	中学校	102	99	103	104
英検を受験する生徒の割合 (中学生の英語に対する興味、関心の度合)		15.6%	14.0%	16.0%	30.0%
全国体力調査の全国平均を100とした場合の指数	小学校男子	95.3	95.1	96.5	100.0
	小学校女子	94.2	100.0	96.9	100.0
	中学校男子	89.7	93.0	92.8	100.0
	中学校女子	95.5	96.2	95.3	100.0
学校園評価アンケートにおける児童生徒のアンケートの結果	学校に行くのが楽しい	87.8%	86.9%	87.1%	90%
	授業がよくわかる	89.7%	89.4%	90.0%	92%
	先生が話しかけてくれる	83.3%	85.3%	85.2%	86%
インターネット会議システム活用学校		0校	2校	2校	8校
合同学習実施校	小学校	4校	5校	5校	7校
	中学校	0校	1校	1校	2校
住民学習参加人数		4,376人	4,531人	4,192人	4,900人
人の目の垣根隊会員数		821人	767人	736人	830人